

AJWCEF

NEWS LETTER ニュースレター

オーストラリア日本野生動物保護教育財団会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様におかれましては、平素よりオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、我々人類は度重なる争いを経験し、多くの人々の尊い命や平穏な生活を奪ってきました。それにも拘らず、未だに世界の各地で戦火は絶えません。その状況下で、戦争の抑止と称し、近年多くの国が防衛力の強化を図り、核開発を含むさらに強力な危険な武器の開発に多額の国家予算を当てています。しかし、このような傾向が本当に世界の人々に平和で穏やかな生活をもたらすのでしょうか。私はこの国々の方針に大きな疑問を持っています。

私は獣医師として愛知県名古屋市で獣医科病院を運営しておりました。思うところがあり、病院を新進の獣医師たちに譲り、オーストラリアへ渡りました。その後、クィーンズランド大学で博士号を取得する傍ら、日本と国の成り立ちや国民の考え方の異なるオーストラリアの社会に触れ、その多文化共生社会の在り方を肌で感じてきました。そして今思う事は、我々一般市民が異なった価値観や背景を持っている多くの人々に出会い、様々な場面を経験し、そこから相互に理解し認め合う事こそ世界の平和の礎になるのではないか、という事です。

私が今まで出会った中で最も心に残っている言葉の一つをお伝え致します。これは今から100年以上前、現在日本最大の医学学会である日本癌学会の前身、日本癌研究会の初代会頭、青山胤道東京大学医学部教授が研究会の発会式で述べられた挨拶の言葉です。この時代は日本が当時大国といわれた清国やロシア帝国との戦争に勝利し、経済力と武力をもって世界に進出しようという富国強兵の考え方が国内に満ちた時代であり、その時代にあって青山先生がこの言葉を述べられたことに大きな意義があったと思います。そしてその言葉は100年以上を経た今でも非常に重要な意味を持って多くの人の心に訴えかけています。

「武力によって国際間の同情と尊敬を受ける事はもはや出来ない時代であります。

金力によってそれを受ける事ももはや出来ない時代であります。

ただ国民が文化に向かって多大なる進歩を与えるときに、国際間に同情と尊敬を受ける事が出来ます。

もしこの癌研究会において、我が国の学者の研究が欧米先進諸国の研究よりもより多く、より良いところの結果を得ましたならば、我が国の国際間に於ける同情と尊敬とは、彼の数十億万の金を投じ、十数万の兵士の人命を賭して得たる所のものよりも多かろうと思います。」

AJWCEFは良い地球環境を次世代へ残していくため、これからも「人と自然のより良い共生」を目指し活動してまいります。どうか皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。

オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男

2026年夏期 トレーニング コース開催日 (総合コース)



参加者
ニ 受付中

第3回 野生動物保護 総合 トレーニングコース

※2026年

8月10日(月)～

8月20日(木)

11日間

※募集期間:

2026年
7月10日まで

※ 次回の開催は2027年
春期(3月)、募集開始
は11月から予定してい
ます。

詳しくはHP

🌐 <https://ajwcef.org/>

お問合せ

✉ training@ajwcef.org

臨床トレーニングコース 体験記

2026年3月1日(日)～9日(月)



私は、大学で野生動物学の講義を受けたことをきっかけに、野生動物保護に関心を持つようになりました。そうした中で、以前友人がAJWCEF主催の研修に参加していたことからこの研修を知り、興味を持ちました。

現在、私は病理学研究室に所属しており、普段はなかなか解剖する機会の少ない有袋類をはじめとするオーストラリア固有の珍しい動物の解剖がプログラムに含まれている点も、参加を決めた理由の一つです。

特に印象に残ったのはケーススタディのプログラムです。野生動物の実際の症例をもとに、考える原因や治療、対応について多くの分野の知識を活かして検討することで、より実践的な学びを得ることができたと感じました。また、野生動物では伴侶動物のように継続的な治療を前提とするのではなく、野生復帰の可能性や人との接触によるストレスへの配慮なども考慮して判断する必要があります。こうした点から、野生動物に対する対応の難しさと、その対応の重要性を学びました。日本ではできない貴重な経験をできた大変有意義な研修でした。ありがとうございました。

S.W 岩手大学 共同獣医学科 4年生



S.K 麻布大学 獣医学科 5年生

今回の研修を通して、野生動物医療の現場や社会の中での野生動物との関わり方について、多くの学びと気づきを得ることができました。今回得た経験は、野生動物と人間の関係について自分なりに考えを深めるいい機会になったと感じています。今後も今回の経験を大切にしながら学びを深め、将来野生動物と人間、そして環境とのより良い関係づくりに関わっていけるよう、引き続き考え続けていきたいと思っています。

また、同じ研修に参加した他の学生たちとの交流も大きな学びになりました。それぞれ異なる経験や考えを持つ参加者と意見交換をする中で多くの刺激を受け、自分自身の考えを見つめ直す機会にもなりました。動物に対し強い関心や思いを持つ仲間と濃密な時間を過ごせたことは、今回の研修の大きな財産になったと感じています。



研修を通じて、オーストラリアには感染症管理の考え方や救護に対する姿勢、人間と野生動物の関わり方、動物福祉に対する捉え方など、多くの点で日本とは異なる視点が存在していることを知ることができました。特に、野生動物の救護や医療体制が整備されていたり、一般の人が負傷した野生動物を専門病院に連れてくるという選択肢が社会の中に広く認識されていることは、日本と比べて印象的でした。

また、寄付やボランティアなどを通して野生動物医療を支える人々が多くいることから、野生動物に対する社会的な関心の高さを感じました。一方で、こうした仕組みはオーストラリア特有の社会背景の上に成り立っている部分もあることを知り、得られた知見の中から日本でも活かすことのできる視点を考えていくことが重要だと感じています。



日本では経験できないような実践的な技術を、直接手を動かして学ぶことができました。教科書だけでは得られない、野生動物を扱う現場ならではの判断や技術に触れたことは、大きな学びとなりました。

実習期間中は、宿泊や移動の手配から講義の翻訳に至るまで、日本人スタッフの方々に手厚くサポートしていただき、何不自由なく生活することができました。海外経験の少ない獣医学生の方にもぜひ参加をお勧めしたい環境です。

T.M 岐阜大学大学院

*研修感想文・一部抜粋



会員限定！

やってみよう

翻訳ボランティア！

英語力アップに！

のレアな話題に触れよう

添削だから英語不安でも
OK！

オーストラリアの野生動物関連
ニュースを翻訳してAJWCEFブ
ログで発信するAJWCEF**会員限定**
ボランティアを募集していま
す。（ペンネームOK）
すでに会員の方もこれから会員
になって翻訳ボランティアをし
たい方も、
✉info@ajwcef.orgまで
「ボランティアについて」とお
問い合わせください。
お待ちしております！

AJWCEF で検索
フォローお願いします！

Instagram

YouTube

facebook

基礎トレーニングコース 体験記

2026年3月10日(火)～20日(金)



一言で想像以上の体験でした。オーストラリアにおける動物と人の関わりについて、講義や実習、レンジャーさんとの会話により、仲間と共に多方面から見つめることができました。各動物の生態や飼育の仕方、現状や今後の課題などについて、実際に世話を行っているレンジャーさんから直接話を聞き、自身で質問できる機会がたくさんあります。レンジャーさんはどの方も優しく動物が大好きな方で、丁寧にゆっくり講義や質問対応を行ってくださり、英語初心者の自身でも英語でたくさんコミュニケーションを取ることができ、達成感やこれからの自信を得ることができました。また、通訳しながらも関連知識をたくさん教えてくれるスタッフさんも同行してくださり、連日安心してプログラムに参加することができました。自身は現在、獣医学部生として大学病院で小動物臨床に携わっていますが、野生動物ならではの難しさや工夫、また複数種の動物を管理する際の重要な点など、普段では味わえない、バックヤードでしか知ることのできないような経験をたくさん得ることができました。野生動物に興味がある人、英語を話したい方、動物園が好きな方、語学留学じゃないけど海外で経験を積みたい方、獣医学生の方など、多くの方に楽しんでいただける内容だと思います。また今回は学生のみでなく社会人の方も複数参加しており、歳の差を感じることなく多くの楽しい思い出を作ることができました。

M.K 北海道大学 獣医学科 4年生



トレーニングコースを通して、オーストラリアでの野生動物と人との共生について学ぶことができました。主な内容としては、カランビン野生動物病院では野生動物の保護について、デイビッドフレイワイルドライフパークでは飼育管理を通して動物の生態についてです。現地の方のお話を直接聞き、動物も間近で観察できるという大変貴重な機会でした。英会話の勉強にもなります。また宿泊に関しては共同生活になりますが、様々な年代、バックグラウンドの方々と交流できる有意義な時間でした。私は普段、会社員であり動物には関係のない職業についています。ですが、人も動物も住み良い社会、環境になって欲しいと思っていて、その思いがより一層強まりました。日本も島国です。固有種の保全がもっと普及するように、野生動物の研究がさらに進んでいくように、企業の社会貢献としてもなにか形にしていきたいなと思いました。

A.K 社会人



オーストラリアの野生動物について知りたいと思いインターネットで検索していた際、偶然こちらのツアーの存在を知り、自分の目で見て経験できる良い機会であると感じ参加を決めました。



S.M 専門学生

*研修感想文・一部抜粋

全体の実習を通して、非常に多くのオーストラリアの野生動物、飼育動物について学び自らの手で管理を行うことが出来、とても充実した時間を過ごすことができました。本当にこのツアーに参加して良かったです。ありがとうございました！！

今回のトレーニングコースで1番興味関心が深かったのはコアラの解剖でした。現地の獣医師によって臓器の説明やどのような機能があるかまた状態による病気の有無などの判断方法など自分は獣医師になる訳じゃなくてもとても興味関心が深まりました。これだけでも来たかいがあったなと感じれました。その他にも日本とは違う野生動物に対するアプローチや現地のレンジャーさんとのコミュニケーションによる英語の上達など多くのことを考えさせられ、多くのことを知ることができました。また、各動物の生息地の説明から柵内の掃除などアクティビティも多く、とても楽しかったです。

R.K 北里大学 生物環境科学科 2年生



AJWCEF会員募集!

AJWCEFは、オーストラリアの野生動物保護と環境保全を目的に活動する非営利団体です。オーストラリアと日本をつなぎ、共生的な保護活動を広げていくため、支援して下さる会員を募集しています。会費は野生動物保護・救護団体への寄付や教育・研修活動の運営に役立てています。会員になってくださった方には、トレーニングコースへの優先申込やニュースレター配布、ボランティア活動への参加など特典があります。会員資格は1年毎更新、会費5000円～です。詳しくは弊社団体ホームページ上「入会・寄付」をご覧ください。うえ、ご登録をお願いします。

**Thank you for
your support!**

会員募集(個人・法人) 及び寄付のお願い

皆さまのご支援が
小さな命を助けます。
詳細は、AJWCEFのサイト
www.ajwcef.org
『入会・寄付』のページに
お進みください。

AJWCEFの最新情報は

 @ajwcef_official

 @friends.of.ajwcef



AJWCEF 活動報告

(2025年12月から2026年5月まで)

トレーニングコース

3/01 - 3/09 第①回 臨床トレーニングコース
3/10 - 3/20 第②回 基礎トレーニングコース

スタディーツアー

3/02-3/05 某私立高校(新潟県) オーストラリア海外研修
3/05-3/09 某公立高校(愛知県) オーストラリア海外研修

オンライン講座

2025年11月～ 仙台ECO動物海洋専門学校 後期(全8回)
2025年11月20日 AJWCEFセミナー「コアラとその危機」
2025年12月9日 オンライン講義(某高校)
2025年12月22日 AJWCEFセミナー
「オーストラリアにおけるオオコウモリと人獣共通感染ウィルス」
2026年5月29日 AJWCEFセミナー「コアラとその危機」

AJWCEFイベント

2025年11月24日
オーストラリア野生動物トレーニングコース座談会(オンライン)

寄付

University of Queensland
Arc Training Centre for Bioplastics & Biocomposites \$300



AJWCEF

ニュースレター発行

オーストラリア日本野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野 哲男

編集担当 クリス 悠子 / 浦野 光瑛

ホームページ www.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE, QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 + 61 7 3195 4749